

大鰐の森で出会う、スギとヒバの大径木

東北森林管理局 津軽森林管理署

7月末、雨の名残を含んだ空気が林内に漂う中、青森県南津軽郡大鰐町にある「大鰐スギ、ヒバ希少個体群保護林」において、「青い森林業アカデミー」の研修生を対象とした保護林の見学会を行いました。

当日は、道の駅いかりがせきで署長による開催の挨拶を行った後、保護林へ向かいました。署長からは、保護林制度の概要を学ぶとともに、普段なかなか目にすることのできない貴重な林分を、ぜひ自分の目で見てほしいとの話をしました。

現地では、はじめに保護林の役割について説明しました。国有林では、原生的な天然林や希少野生動物に必要な森林を保護林として設定し、最適な保護・管理に取り組んでいます。大鰐スギ、ヒバ希少個体群保護林は、1916年に設定された保護林であり、国有林野独自の保護林制度が始まった翌年には、すでに貴重な森林として大切にされていたことが分かります。

林内に入ると、研修生の前には樹齢300年近い天然スギとヒバの大径木が並び立ちます。雨上がりの森では、幹の太さや樹皮の質感、頭上へ伸びる木々の高さがいっそう際立ち、長い年月をかけて育ってきた天然林の存在感が感じられ、研修生からも、そのスケールに驚いた様子が見られました。



樹齢300年近い大径木を観察する研修生

この保護林の特徴は、スギとヒバが同じ場所で混じり合って生育していることです。天然スギは湿り気が多く肥沃な土地を好み、ヒバは比較的乾いた条件の厳しい土地でも育つことができます。生育に適した環境が異なる二つの樹種が、長い年月をかけて一つの森林を形作っていることが、この保護林の大きな魅力です。

また、現地ではスギとヒバの葉や樹皮の違いなど、実際の木を見ながら見分け方についても説明しました。資料だけでは分かりにくい樹種の違いも、林内で木々を見上げ、葉に触れながら確かめることで、より身近に感じられる機会となりました。

調査プロットの付近では、保護林で行われているモニタリング調査について説明しました。林内ではヒバの稚樹が多く見られる一方で、スギの稚樹はほとんど見られません。ヒバは少ない光でも育ちやすいため、長い目で見ると、この森林はヒバ林へ移り変わっていくことが予想されています。

そのような中、研修生が天然スギの稚樹を発見しました！



研修生が発見した
天然スギの稚樹

令和2年度の調査では、スギの稚樹は確認されておらず、現地では「ラッキーだったね」と声を掛ける場面もありました。見上げるほどの大径木が立ち並ぶ森の中で、足元に息づく小さな稚樹にも目を向けることで、森林がどのように次の世代へと移り変わっていくのかを考えるきっかけにもなったのではないかと思います。

「大鰐スギ、ヒバ希少個体群保護林」では、長い年月をかけて育ったスギとヒバの大径木を間近に見ることができます。熊対策など十分な準備は必要ですが、興味のある方は、自然の中で受け継がれてきた貴重な森林の姿を見に訪れてみてはいかがでしょうか。

津軽森林管理署 総務グループ